

中国留学体験談

国際文化学科
21018037 近藤祈

留学とは、語学力の向上はもちろん、異文化理解や外国人との交流を深めることが目的である。北京で私たちは多くのことを学び、たくさんの人と交流し、たくさん遊び、充実した留学生活を送った。

まず北京にきて、私たちはカルチャーショックを受けた。道路は交通規則を守らない人がほとんどで、青信号を渡ることすら困難だ。歩道にもバイクが乗り上げてくるし、クラクションもしょっちゅう鳴らすので、最初の頃は非常にストレスだった。さらに服务员の態度も素っ気なく、中国語も通じないため心が折れそうになった。日本人とは所作や文化が全く違い、なぜこうなのだろうと苛立ちもあった。しかし数か月経つと自然と慣れてくる。中国での当たり前は私たちの当たり前と違うし、私たちの当たり前も中国の当たり前ではないことに気づいたからだ。どちらが正しいとかではなく、違う文化を否定せず受け入れるということを今回の留学で身をもって体感した。また、中国人は気が強く怖いという印象を持ちがちだが、たしかに実際第一印象はそのままだ。しかし話してみると意外と打ち解けたりとても親切だったりする。日本のドラマやアニメが好きなのも多く、日本人だと知ると歓迎してくれる。

クラスメートの国籍も多種多様で、イギリス、スペイン、ポーランド、コンゴ、韓国など様々な地域から中国語を学びに来ていた。最初は日本人で固まっていたばかりいて、全く外国人の人とコミュニケーションをとることができなかった。最終的には多くの人と交流していたが、もう少し自分から積極的に話しかければよかったと後悔している。しかし外国人と交流する機会はクラスだけではない。本学が企画する中日交流会では、中国人の人と連絡先を交換して何度か遊びに行った。また他の留学仲間からの紹介で韓国人や中国人と知り合い、彼らとも頻繁に遊びに行った。北京にはたくさん遊ぶところがある。天安门、王府井、前門、万里长城、五道营胡同は有名な観光地で、中国らしい古き良き街並みと現代的な建造物の共存を見ることができる。また、西单、三里屯は大きな繁華街で、巨大な百貨店やハイブランドが立ち並ぶ。近くには五道口というコリアンタウンがあり、美味しい韓国料理やカラオケで遊ぶことができる。机に向かって勉強することはもちろん大事だが、是非外国人やかけがえのない留学仲間たちと様々な景色を見に行っておきたい。

私はこの留学で今までの価値観が全く覆り、自分たちのいる場所は実はすごく狭くて、世界はこんなに広いんだと感じた。この気持ちを忘れずに今後も本学で国際社会を学びより理解を深めていきたい。